

長浜市森林ディレクション審議会（平成28年度第2回）要点録

【日時】 : 平成28年7月28日（木）10:00～12:00

【場所】 : 高山キャンプ場

【出席委員】 委員9人（敬称略）

特定非営利活動法人妙理の里 片山 由文

内保製材株式会社 川瀬 文明

長浜市伊香森林組合 高橋 市衛

滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 高橋 卓也

公募市民 藤井 克博

滋賀県猟友会北部有害鳥獣捕獲組合 藤田 和司

伊香具山友会 横関 隆幸

長浜市森づくりクラブ 横田 光代

滋賀県湖北森林整備事務所 原 滋治

市 5人

森林整備課 大澤課長（事務局）

森林整備課 永井課長代理（事務局）

森林整備課 松本主幹（事務局）

森林整備課 花澤主幹（事務局）

農林課 藤田課長（オブザーバー）

【議事概要】

（1）平成27年度事業評価について

花澤主幹より資料1～3を基に説明。

（2）平成29年度事業計画について

花澤主幹より資料4を基に説明。

（3）その他

・森林マッチングセンター

・長浜市森づくり計画（市町村森林整備計画）の変更

・今後のスケジュールについて

永井課長代理および花澤主幹より資料5～6を基に説明。

【要点録】

- ・永井課長代理：平成28年度第2回長浜市森林ディレクション審議会開催および高山キャンプ場の施設説明
- ・大澤課長：あいさつと審議事項について説明
- ・花澤主幹：資料1から順に長浜市森づくり計画アクションプランの事業評価等について説明

●長浜市森づくり計画アクションプランの事業評価について質疑応答

Q：指標化がむずかしい事業の評価方法は定性的評価のようなイメージでしょうか。

A：当初、各事業で指標が数値化されていない項目も定量的評価していましたが、数値評価の根拠化がむずかしいため、定性的評価で評価したいと考えています。

Q：素材生産性の修正は現状に即した形になったので評価できると思います。

A：長浜市伊香森林組合と滋賀北部森林組合の面積割合が違うため、面積に応じて素材生産性を按分しました。

Q：大規模市有林活用事業とはどのような事業でしょうか。

A：西浅井町集福寺地先にある市有林で面積が200ha程度あります。

面積が大きいゆえに、地域振興に資するような対策を検討したいと考えています。

Q：素材生産量の目標数値20,000m³の出口戦略についてはどのように考えていますか？

A：A材に関しては、国の施策でCLTの活用が進められています。市としましては、管内の素材の割合のうち半分がC材であるため、A材の活用を図るため、市営住宅への市産材供給や公共施設のコテージ、フローリング材として活用しています。市でも公共施設に市産材を積極的に利用してもらうように関係各課に依頼しています。

Q：県からですが、公共建築物の利用は予算や政策によりばらつきがあります。長浜市では基金を創設され積極的に進められているので十分な評価はできると思います。材積は結果論であり数値評価は難しいと考えます。

Q：道路パトロールの実施だけでA評価ですか。伐採して欲しいところの要望は多くありますが。

A：緊急度合いにもよりますが、通行に支障のある個所は剪定を実施しています。

評価は担当課で他に要望事項を聞いて再検討します。

Q：有害鳥獣対策の評価がすべてB評価となっていますが、客観的に評価するとそうなるかもしれませんが、捕獲数の規制等を含めても、取組みの実績は非常に評価できると考えています。

★：審議会の総意として評価を「B」⇒「A」とする。

Q：里山づくり事業、講座開催などは良い方向で流れていると思います。

事務局運営も団体で取り扱ってほしい意向は市から聞いていますが、理想と現実にはギャップがあります。市の関わりは外せないと感じています。

A：弾力的な運営の一環として会計管理など、市が受け持つ事務局を団体へ委ねて行きたいと思っていますので、ご理解をお願いします。

Q：お金を回すこと、収益になるようなシステムが定着しないと団体の独り立ちは難しい。ボランティアからビジネスになる流れを市に期待したいと思います。

Q：企業との連携など市からの働きかけが少ないと感じます。県の制度のパートナー協定もあり企業へ出向いてのPRに力を注いでほしいと思います。

A：企業との連携となるフィールドは当然必要ですが、トイレやレクリエーション施設など周辺の利便性を言われる企業が多く、提案できるフィールドプランを次年度以降検討していきたいと思っています。

●平成29年度事業計画について質疑応答

Q：林地台帳の作成に関して、森林の境界を確認してもらえるのか？

A：森林の境界を直接明確にする事業ではなく、森林所有者等の情報を台帳にとりまとめ、公表することにより森林の施業集約化に資するもので、あわせて森林の地図を作成するものです。現在、平成31年度の運用開始に向け、国で運用マニュアル等の作成準備が進んでいます。

Q：質問より要望ですが、市産材の流通調査については、経済的循環につながる仕組みづくりを大いに期待しています。

Q：市産材を利用した車庫をつくりたいという要望があるが、量的規制などがあり、対象外になるということです。量的規制の解除と改築などの拡大も検討して欲しいと思います。

A：現在、市内の工務店などにヒアリングに出向いている中でも要望は多いと感じています。いつまでも補助は続かないことは理解頂いていますが、市産材を効率よく安価に流通する仕組みを早期に立ち上げ、補助金分がコスト低下につながるよう検討していきたいと考えています。

●その他

(1) 森林マッチングセンターについて

Q：移住定住との結びつきがメインで、山村での定住がねらいかと思いますが、長浜の都市部での居住も視野に入れた方が良いのではないのでしょうか。

Q：山村就労は魅力の多いので、いくつかパターン化してPRしないといけないと思います。

A：本年度スタートしたところですし、林業だけに特化したものではなく、農業、観光面も含め、多くの意見を取り入れながら、マッチングを成立できるようにしていきたいと思えます。

(2) 長浜市森づくり計画（市町村森林整備計画）の変更

資料に基づく説明に対して特に意見等なし

(3) 今後のスケジュールについて

(事務局から)

- ・長浜市森づくり計画の変更に伴い必要に応じて審議会の開催を依頼する場合がありますので、ご協力をよろしくお願いします。
- ・ディレクション審議会委員の任期が今年度末で満了となることから、新たな人選を現職のみなさんの意向を伺いながら、進めていきたいと考えています。女性の委員が少ないことが課題と認識しているため、心当たりの方がいれば推薦いただきたいと思います。

●会議終了